



生駒市立鹿ノ台小学校

鹿小だより



鹿ノ台ページ

令和 8年 7月 1日

第 7 号

夏休みまでのラストスパート

3年生教室の廊下の窓下に掲示されているのが表題のワークシートです。
“夏休みまでにさらにレベルアップできる目標”が書かれていました。4月からこれまでの自分を振り返って、一生懸命考えて書いている様子が伝わってきます。



学習の目標の例

- ▶ 字をきれいに書きたい
- ▶ わり算をすぐ言えるようになりたい
- ▶ フロール25m、〇〇秒を切りたい など



生活の目標の例

- ▶ すぐに怒らない、けんかしない自分になりたい
- ▶ 誰にでもやさしくできるようにしたい
- ▶ 困っている友だちを助けたい など



7月を迎え1学期も残すところあと2週間。わずかに日数ではありますが、「もうちょっとだから、どうでもいいや」ではなく、少しでも「なりたい自分」に近づけるように、一步一步、歩いていくことができれば、自信にもつながることでしょう。



5年廊下の観察コーナー

ちなみに、大きな目標を立てるだけで終わらず、達成するために「いつ・どこで・何をするか」についても書いています。「ルールを守る人」を目標にした子は、「中休み、昼休みに外で遊んでいるとき、チャイムが鳴ったらすぐに戻れるようにがんばりたい」と、さらに具体的な行動目標を立てています。

プールサイドの人工芝と散水用ホース

昨年度は、異常な暑さのため、6月中からプール学習中の熱中症をたいへん心配しました。水温と気温を測定し、その日の天候を考慮して水泳学習実施の可否を判断していますが、昨年度はプールサイドで測定した熱中症指数(WBGT)が基準値を超え、中止となったことが何度かありました。



大プール側の人工芝と散水ホース

本校では、プールサイドに緑色の人工芝マットを敷き、散水用ホースを設置しています。プールサイドのコンクリートは、経年劣化による凹凸があり、はだして歩く子どもたちが痛がったり、水でふやけた足指をけがしたりすることがありました。また、水泳学習前にはバケツで水を撒きますが、暑い日はコンクリートですぐに熱せられ、水がお湯のようになって

しまうこともあります。そのため、頻繁に散水する必要がありますが、天候によってはとても追いつかない状況も見られました。こうした課題への対応として、人工芝の敷設と散水用ホースの設置を行っています。

今年度は昨年度と比べて気温が低めですが、水泳学習の全日程を無事に終えるまで、もうしばらくは気が抜けない日々が続きます。



小プール側

プールサイドのネット作業

夜の学校のプールは、月や街灯の明かりを受けて水面がきらきら反射し、何とも魅惑的な光を放っているようです——虫たちにとっては。

特に週明けのプールには虫や落ち葉が浮かんでいることがあります。屋外の水泳施設である以上、やむを得ない面もありますが、決して気持ちのよい状態ではありません。授業の前には

プール用のネットで丁寧に取り除いています。

「何してんの？」と訊いてくる子や「こっちも取って！」と声をかけてくる子もいます。いずれも子どもらしい素直な反応です。そんな中、「いつも取ってくれてありがとうございます」と声をかけてくれる子もいました。何よりうれしく、励みになる一言です。そう言ってくれて、こちらこそ、ありがとう。

この写真はだれのもの？

スマートフォンや iPad などの電子端末はたいへん便利な道具です。

特に、カメラの機能とインターネット接続が1台で手軽に扱うことができる

ため、私たちの生活を豊かにしてくれます。その一方で、使い方によっては、思わぬトラブルに発展することがあります。6年生では、気軽に写真を撮影し、安易に画像を共有し合うことの危険性や肖像権を守ることの大切さについて考える授業を行いました。授業では、主に、次の2つの場面について考えました。



①A 先生のスマホで B 先生を撮影した場合 ②A 先生が C 先生とツーショット撮影した場合

これらのケースについて、「何か問題はないか」考えたところ、本人の同意があれば問題ない考える子が多くいました。次に、「撮影された画像がいったい誰のものなのか」について訊ねると、撮影した人（スマホの所有者）のものと答える子どもが多くいました。授業は、3人の担任が、日常にありそうな場面をロールプレイで示し、実際に撮影した画像も見せながら話し合いを進めていきました。



A 先生から①と②の画像をもらい受けた B 先生が、他者に画像を送った場合についても話し合いました。ここで、授業のしかけとして、それぞれの画像のコピーを、6年生の子どもたち全員に配布しました。実物を手にした子どもたちに、「このように画像が配られたとしたら、どんなことが起こりそう？」と問いかけました。「顔に落書きをしそう」「画像が合成される」「別のグループに勝手に送ってしまうかも」と意見が出てきました。よく考えています。しかし、さらに先生から、画像の人物の個人情報や悪口を添えて拡散される可能性や悪意のある人物に利用される危険性など、より深刻な事例を紹介されると、教室に緊張が走りまし

た。一度他人の手に渡った画像は、その先で誰がどう扱うのかは分からない。送った人もその後の責任を取りきることは難しい——先生の言葉が重く響きました。

授業の終盤、実際に SNS で動画を拡散されて問題となった2つの事例(事件)も紹介され、子どもたちは、真剣に話を聞いていました。

最後に、先生が写った2枚の写真をすべて回収して授業を終えましたが、電子端末で配布された場合、すべてを回収することはたいへん難しいことでしょう。